

播磨高原広域事務組合校務D X計画

「G I G Aスクール構想の下での校務D X化チェックリスト」に基づいた自己点検の結果を踏まえ、教育委員会及び学校の教育D Xを推進するため、以下のとおり校務D Xに関する取組みを進めます。

1 ゼロトラスト環境の構築

本組合では、校内ネットワークを、「校務系」と、「学習系」の2つに分離していますが、この構成により、教員が校務を行う時間や場所に制約があります。

今後、教職員が時間や場所にとらわれずに校務が行える環境の実現に向け、「校務系」と「学習系」を統合し、強固なセキュリティ対策を施したゼロトラスト環境のクラウドネットワークの構築を検討します。

2 次世代型校務支援システムの導入

本組合では、統合型校務支援システムを導入し、校務のデジタル化や教育データ活用において一定の効果が見られます。一方で、他システム等で蓄積したデータとの連携を前提とした利活用の推進については、課題があります。

また、校務処理に係る時間が長大化しているため、校務処理の効率化によって、教職員が児童生徒と向き合う時間を確保していく必要があります。

様々な教育データを連携し活用できる次世代型校務支援システムや、汎用クラウドツールの導入を検討し、学校経営・学習指導等の高度化、効率化を目指します。

3 クラウド環境を活用した学校との情報共有

本組合では、教育委員会が学校に発信する通知や調査についての多くは、電子メールにて行い、学校において印刷し配布しています。

学校業務の一部は、汎用クラウドツール等を活用し効率化を図っていますが、クラウドツールの活用をさらに推進し、迅速かつ円滑な情報共有に努めます。

また、教員の照会事務等に係る負担を軽減し、業務の効率化を進めます。

4 各種研修会のハイブリッド化

本組合で実施している研修会の多くは、対面形式により実施していますが、教員の負担を軽減するため、今後、対面参加とオンライン参加のどちらの形式でも参加可能となる、研修会のハイブリッド化を図ります。

また、研修動画を録画配信することで、時間を選ばず参加できる環境を整え、研修の参加率及び研修効果の向上につなげていきます。